

令和5年12月18日

これからの博士人材の育成にむけた考え方の整理

研究大学コンソーシアム

表題の件につき、以下の論点について、今後、研究大学コンソーシアムのタスクフォースにおいて、議論を進める。

●これからの博士人材育成において目指す方向性は何か？

博士人材として必要な「学問」(教養)を基盤とし、創造性と社会性を兼ね備えた、広くイノベーション創出に貢献する博士人材を育成する。そのための、多様な仕組み・評価の検討と実装が必要である

●これからの大学院博士人材育成として、何が必要か？

- 「学問」(教養)を基盤とした創造性と社会性の両立。これによる社会との接続、イノベーションへの貢献とそれを担う人材の育成(創造性+社会性を持った「人間力」の養成) ※ここで言う創造性には、「課題発見力を持ち、それに対する課題解決のために適切なチームを編成し、そのリーダーとなる力」も含む。
- 大学・研究機関を中心とした確固とした学術研究基盤をもととした、社会との接続を意識した大学院の在り方
- その分野の専門性の追求だけではなく、異なる他者、他分野の知識を感受する力、多様な考えを受け入れることができる力(広い教養)
- エビデンスに基づく確固とした研究力に立脚した深い教養、構想力および突破力
- リーダーとして、研究開発を俯瞰し組織を率いることができるプロジェクトマネジメント(PMP)を担う力
- 社会のニーズや課題を発見し、その解決を目的とした、社会人のリカレント教育としての先端学問・教養の学び直し
- 国際基準での博士人材育成
- 社会の中において、博士号を持つことに対する尊厳と誇りの醸成、認知の拡大
- 日本全体として、大学の研究力強化に資する取り組みとしていくことが必要

●現時点で、できていること、できていないこと

	できていること	できていないこと
創造性と社会性	専門性に基づく創造性の深化	「学問」(教養)を基盤とした創造性と社会性の両立、その接続
大学院体制	大学院同士の連携(連携大学院)	大学院と、研究機関、他セクター(民間企業等)との連携による横断的な

		連携大学院
大学院の位置づけ	小中高大から大学院まで、高等教育としての大学院の役割	確固とした学術研究基盤をもととした、社会との接続を意識した大学院の在り方
博士課程の意義	卓越した学問に関する深い専門性 アカデミアにおける価値の創造	卓越した学問の深い専門性と社会との接続（社会性）
評価の在り方	論文評価（とくに量）での博士課程の評価	論文評価だけでなく、論文評価以外の多様な評価軸の提案
キャリアパス	アカデミアにおけるキャリアパスの一つのステップとしての博士課程	社会の中での博士号取得のメリットとそのキャリアパスの具体化
社会人リカレント教育		社会人を受け入れるための多様で柔軟な制度設計（休業補償、企業への補助金の交付など）
横断する力、俯瞰力、トランスファブルスキル	専門性の追求	異なる他者、他分野の知識を感受する力、多様な考えを受け入れることができる力の育成、そのための体制
国際性		国際基準での博士人材育成

●検討すべき具体的な方策

1) 社会人リカレント教育を推進するためのモデル大学院の認定と制度検討

確固とした学術研究基盤をもととし、博士人材として必要な「学問」（教養）を社会人が学び実践する場として、全国20校程度を社会人リカレント教育のためのモデル大学院として認定。

この取り組みを通じて、以下の点を検討

- ① 確固とした学術研究基盤をもととした実践の場の創設
- ② 論文指標に頼らない多様な評価指標の検討
- ③ 社会人を受け入れるための多様で柔軟な制度設計（休業補償、企業への補助金の交付など）
- ④ 新規博士号に加えて、既存の博士号保持者のリサーチインターン受け入れ
- ⑤ 当該大学院のマネジメント支援体制の整備（URAをはじめとするマネジメント人材の雇用を含む）、教員だけに負担をかけない仕組みの検討
- ⑥ 資金も含め継続性・持続性を見据えた制度設計

2) 複数の大学・研究機関・分野・セクターにまたがる「社会と接続性のある研究テーマ指向型」博士人材育成大学院コースの創設と、そのための学術研究拠点（コンソーシアム）の形成

オープン・サイエンス時代を前にして、エビデンスに基づく確固とした研究力に立脚した「社会と接続性のある研究テーマ指向型」で、大学を中心とし複数の研究機関・企業等の異なるセクターが連携した大学院コースの創設と、そのための学術研究拠点（コンソーシアム）の形成（全国20校・20コース程度を指定）。

この取り組みを通じて、以下の点を検討

- ① 大学を中心に、研究機関や異なるセクターが協働して博士人材教育を実践する枠組み
- ② 大学だけに閉じず、研究機関や異なるセクターとの連携による分野横断型の研究推進のための学術研究拠点の形成（ポスドク研究者の雇用を含む）
- ③ 人文学・社会科学から自然科学まで、確固とした学術研究基盤とエビデンス（データ等）をもととした、社会と接続性のある研究テーマの設定
- ④ 近未来（10年後）、そして、さらに未来の経済・産業・社会への貢献
- ⑤ 次世代を担う若手人材育成とそのためのカリキュラムの編成
- ⑥ 柔軟な制度・多様な評価方法の検討。
- ⑦ 民間企業とのマッチングによる実践
- ⑧ 当該研究拠点の研究開発マネジメント体制の整備（URAをはじめとする研究開発マネジメント人材の雇用を含む）

3) 国際共同研究を基盤としたテーマ設定型の国際連携大学院コース制度の検討

二国間また多国間協定等に基づき、特定の国の特定の大学大学院と国内の特定の大学大学院との連携による、国際共同研究を基盤としたテーマ設定型の国際連携大学院制度設計。既存の Joint Degree Program の運営上の反省を踏まえた柔軟な制度の在り方の検討。

この取り組みを通じて、以下の点を検討

- ① 国際共同研究を基盤としたテーマ設定型の国際連携大学院による博士人材育成を実践
- ② 国際的な評価基準に基づく、評価制度の検討
- ③ 国際連携・国際共同研究マネジメント体制の整備（URAをはじめとするマネジメント人材の雇用を含む）

※言葉の意味

1. 学問：学問の意義は、人類の知的認識領域の拡大である。それは、個人の知的好奇心を満たすということを超えて、人類共有の知的財産の拡大を意味している。
2. 教養：学問を通じた人間形成。学問を行うことにより、自分を作り上げ、確立していくこと。

3. 創造性：新たな心的表象を創造する能力のことであり、これによって個人が追求すべき目標を思い描くことができ、また他者が自らの心的表象を創造するのを助けることができる。
4. 社会性：単に他人の必要を気遣ったり、集団に属していると感じたりすることを意味するのではなく、他者と共通の目標を考え、実現するために協力する能力。異なる考えを持つ他者への興味と、他者と課題を共有する安心感の両方を意味する。

※1：1及び2は、文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術研究推進部会人文学及び社会科学の振興に関する委員会（第12回）資料2 「人文学及び社会科学の振興に関する委員会」における主な意見（案）－「人文学」関係－を参照して定義。

※2：3及び4は、Maurizio Pugno 著「Well-being and Growth in Advanced Economies」を参照して定義。